

## 保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人 0-99 おかやまおしえてネット
施設名	くんぺるふぁみりえん
報告者（役職）	松岡 幸子（保育士）、山根 成美（事務員）
住所・連絡先	岡山県岡山市北区北長瀬表町二丁目 17 番 80 号
	☎ 086-250-7507 E-mail 099fami@gmail.com

○タイトル（保育計画）

砂場は自由表現の極み

○主な助成備品

砂場

### 1. 保育計画策定の目的

当法人は、子どもの体と心の発達について、親ができるだけ早い時期に理解することが、家庭教育力の向上のみならず、社会の課題につながる重要なポイントであると考え、子育て支援活動を行ってきました。その子育て支援活動の集大成として、2018年秋から保育事業を開始し、当園はその2園目の施設として、2019年6月に開園しました。

年齢によって異なる遊び方ができ、一人でも複数人でも楽しく遊ぶことのできる砂場遊びを通して、子どもの発達や情緒の安定を促すことを目的として、以下の点に着目しながら保育計画を立てました。

- ◆ 砂の感触を楽しむ
- ◆ 身近にある道具や自然物を取り入れ、想像力を膨らませ、見立てあそびをする
- ◆ 保育者や友だちとかかわりながら楽しむ
- ◆ 砂場遊びを通して、発見したり考えたり工夫することを楽しむ
- ◆ 共有のものを大切にする

また、当園に併設する子育て支援活動スペース「アトリエくんぺる」を訪れ砂場を利用する地域の子どもたちにとっても、発達や情緒の安定を促すことにつながります。

### 2. 具体的な実施内容

午前の散歩後の戸外遊びや、夕方のお迎えまでの自由遊びの時間に砂場遊びを行っています。夏期は日陰で遊べるよう環境を作り、感触を手足で感じられる砂場遊びを実施しました。

まず、保育者が「裸足で遊んでみようか」と声を掛け、子どもたちの前で靴と靴下を脱いで砂場の中へ入りました。その様子を見ていた子どもたちの中から一人、二人と裸足になり、砂場へ入り始める子も出てきました。「きもちいい！」という感覚を体全体で受ける様子を見て、屋外で裸足になり活動することに躊躇のある子も少しずつ気持ちが動き、子どもたち皆で裸足の砂場遊びを行うことができました。

### 3. その成果と評価

足の裏から受ける刺激は、脳への良い影響も期待できます。土ふまずの正しい形成にもつながり、衝撃吸収や体幹を鍛えることにもつながります。

<感 覚> 形を自由に変えられる砂に視覚的関心を向け、次第に乾いた砂、湿った砂、温度の違う砂など様々な砂の状態を、手指や素足で感覚的に感じ取ることができるようになっていきます。



<情 緒> 砂には子どもの体や動きを受けとめる安心感があります。活動的に遊ぶだけでなく、静かに心を落ち着けて遊びたいときなどにも心地よい居場所になっています。

<運 動> 不安定な砂の上を歩いたりしゃがんだりすることで体幹が鍛えられ、微妙なバランス感覚や筋力が養われています。



<手先を使う> 手で山を作る、穴を掘る、スコップや型抜き、ふるいなどさまざまな道具を使うことで、手指や手首、肩の動き方や力の強弱の入れ方など繰り返し体験し、次第に使いこなせるようになっていきます。



<言葉> 遊びの深まりと共に、子どもたちの語彙は増えていきます。砂場での友達とのやり取りの中で自分の思いを語ることにより、コミュニケーションの力を高めています。

<社会性> 道具の取り合いや、掛け合いなどのトラブルも経験し、協同的な遊びを深めていく中で、子ども同士の人間関係も深まっています。

<想像力・創造力> 子どもは砂場で色々な物を作って遊びながら想像力を育んでいます。固めた砂の上に小石や木の実などを飾ってケーキに見立てたり、砂場全体を野山に見立ててトンネルを掘って乗り物を走らせたりと、どんどんイメージを膨らませます。また、トンネルを作るときには、砂に水を含ませ、崩れてこないように掘り進めていくなど加減する力も育まれています。



<自己肯定> 思い通りにできた時には笑顔が生まれ、失敗した時には何度も挑戦を繰り返し、忍耐力や集中力、自信や自己肯定感の獲得につながっています。

#### 4. 今後の課題と展望

- 子ども達が砂場遊びをしている様子を一つひとつ見ていると、どの動作も発達につながる重要な活動そのものということがわかります。遊びのイメージを豊かにし、砂場遊びの時間をより充実したものとするために、自然物などの素材や道具、水などを使いやすいように準備・配置するといった環境設定の工夫を重ねていく必要があります。発達を促す大切な時間として砂場活用の幅を広げていきたいと思います。
- 子どもの成長と共に、砂の状態を変化させて、砂の性質をつかみ、状態の変化に関わって、『泥だんご作り』などにも挑戦できるようにしたいと思います。また、個の遊びを中心に集中したい0・1・2歳児、仲間と協同して活発な遊びへと発展させる3・4歳児がそれぞれに満足感をもって遊ぶことができるように今後も工夫していきたいと思います。
- 現状では、子育て支援活動スペースを訪れる地域の子どもたちに対し、砂場の活用ができるよう、今後の活動の中で改善していきたいと思っています。

以上